

## 80 の物語で学ぶ 働く意味 (後編)

### 第5章 より高く

👉 村上信夫～人にも恵まれた、しかしそれは準備し努力した結果である。

11 歳の時に両親を失いコックになろうと決意、18 歳の時迄いくつかのレストランで腕を振るい憧れの帝国ホテルに入社、最初の仕事で洗い場(前の職場では給料 20 円が 4 円50銭に下がった)苦勞して覚えた味は簡単には教えられずに下働きは重労働短い休憩時間を休みたいのを我慢して働いていて気が付いた、鍋の内側はいつも洗って綺麗にしているが外側は料理の味がこびりついたまま大きな重い銅鍋に沁み込み油粕はブラシでも簡単には落ちず磨けるのは 1 日にせいぜい 4 個、2 ヶ月かけて全ての部署の鍋二百位を磨いたある日ほんの少しソースがこびりついた鍋が回ってきて調理場にいるコックを見ると目が合い小さくうなずいてくれ、村上はその味をしっかり舌と喉にしみこませるように舐めた・村上の鍋磨きの努力が報われた瞬間だった。村上は出世して秘伝のレシピを公開・厨房に相互学習の文化風土を植え付けた。料理の極意を聞かれると「愛情・工夫・真心」と言い「夢は持ち続ければ必ず実現する、コック人生は幸運の連続だった人にも恵まれたがそれは準備し努力した結果」と

👉 上手くなるためには苦しむのが当然だと思えるようになる(王貞治)

高校を出てプロ野球巨人軍に入り水原監督は辛抱強く王を使ったが 3 年位経っても打撃成績は向上せず王を育てる為に荒川コーチを招いた。荒川は王が中学 2 年生の時に当時オリックスの選手だったが王の試合を見て「君の悪い癖は治りそうにもない」と片足で立つ素振りを見せ「こういう打ち方があると覚えておけばいい」と、その後も王は 2 本脚打法を続けていた、昭和 37 年の 4 年目のシーズンが始まり 3 ヶ月経ち王も荒川も苦しみいくら練習しても結果が出ず三振王と野次られ臨時の監督・コーチ会議で打撃不振が問題となり荒川は顔色を変えて王の所へ飛んできて「左足打法をやってみろ」とイチかバチか命じた、王にとっても危険な賭けだったが腹を括り打席に立ち第一打席ヒット、第二打席弾丸ライナーで右翼上段へホームラン、第三打席三振、第四打席走者一掃のヒット、それ以来王は一切の遊びを断って荒川指導の元で一挙に打席開眼、この年にホームラン王・打点王、一日に千回のスイング「普段の挑戦が大切だ、常になぜだと考え、より上手くなりたいと思えば肉体や精神の苦しみも倍加するが上手くなれば苦しむのは当然だと思えるようになる」と、868 本のホームランは「世界の王」の頭上に輝いている。

👉 薩摩藩全体で以て立ち上がれば大偉業は間違いなし(大久保利通)～幕末薩摩藩に精忠組という青年武士団があった、首領が西郷隆盛・大久保利通で、名君島津斉彬を頂いたが改革の途次斉彬が急死・西郷は遠島処分、大久保は苦慮し信認をとるべきは久光と、大久保は私情を押さえて久光を分析し・会う方法を考えた P 1

久光は吉祥院の住職真海と碁を打っていることが分かり碁の教授を頼み毎日のように通いやがて気に入られ久光の碁の打ち方や、その気性が剛毅である事を知り、それとなく久光の為に精忠組は働く覚悟があると伝えた。久光は平田篤胤の「古史伝」を読みたいと真海に云い、この事を聞いた大久保は人からこの本を借りて全 37 巻その中の第 1 巻に時事問題と精忠組の考え方を書いた紙片をはさんで渡した、第二巻にも同じようにして又・久光に一步近づいた、精忠組が脱藩し井伊大老を倒す突出の謀議が起き大久保は無謀と直感し久光に知らせた、驚いた久光は大久保を呼んで善後策を尋ね大久保は「彼等の誠心を信じ、突出は我藩の為にならない・突出の押さえになる言葉を賜りたい」と、久光は藩主忠義の名でお諭し文を下した。

忠義の温情溢れる異例の直筆文章に 40 数名は感涙し突出は押さえられた。藩全体で立ち上がれば大成功疑いなしと大久保は日誌に記した、後年西郷・城戸と並んで維新の三傑と称せられた。

- 👉 僕が何かをする事で僕以外の人達が喜んでくれることが今の僕にとっては何よりも大事なこと(イチロー)2016 年 8 月 7 日大リーグ 3000 本安打の記念すべき三塁打で全チームメイトが飛び出しハグし握手して偉大な記録達成を祝福、日本プロ野球で 1258 本のヒットを打ち 7 年連続首位打者のイチローが大リーグに 2001 年入団し 27 歳から 3 千本は白髪混じる 42 歳、この 16 年間で三千本安打は大リーグ 140 年の歴史でピート・ローズ(4256 安打)と並ぶ最速で 30 人目だ。
- イチローは後に「僕は小学校の頃毎日練習していて“あいつはプロ野球選手にでもなるのか”といつも笑われた、アメリカに行く時も“首位打者になってみたい”と言うと笑われ、常に笑われ悔しい歴史が僕の中にはある」と、僕は 3 歳の時から練習を始め 3 年生の時から 360 日激しい練習をやっていますと、そして僕が一流選手になったらお世話になった人に招待状を配って応援してもらおうも「夢の一つでした」と、“達成感や満足感を味わえば味わうほど前に進めると思う、小さな事でも満足する事は凄く大事で僕は今日この瞬間とても満足だ、それを味わう事は又、次のやる気、モチベーションが生まれてくる、と経験上信じているのでこれからもそうありたい”と。

## 第 6 章 理想を胸に

- 👉 実業人の使命というものは貧乏の克服である(松下幸之助)

昭和 7 年松下電器創業者の松下幸之助はある宗教団体を見学し大きな感銘を受けた、松下は宗教団体を 1 つの立派な経営と考え自らの事業経営と比べ真の経営とは何かを考え続けた、そして宗教は悩める人々に安心を与え・人を幸福にしようとする聖なる事業であると。そして事業も人々の生活を維持向上に必要なものを作り物質面から人々を幸せにする聖なる事業である、実業人の使命というものは貧乏の克服である、全てのものを水道の如く豊富に値を安く生産して、無尽蔵な供給と宗教道徳の精神的安定とが相まって初めて人生の幸福が安定する、

我々実業人の使命はここにあると経営の神様と言われた男は常に自省し、理想を求め94年の生涯を疾走していった。

👉 今・時機を失うべからず～木戸孝允(桂小五郎)維新三傑の一人「木戸」の討幕後の最大の功績は日本の封建制度を崩壊させた版籍奉還と、それに続く廃藩置県だ、維新政府は出来たが実態は公家と雄藩の連合が徳川幕府に変わったにすぎない、しかも列強は虎視眈々と日本の植民地化を狙っていた。木戸は新国家建設の為の版籍奉還を立案、当然守旧派から命を狙われたが出身藩主長州毛利敬親に進言、敬親は内心の怒りが収まると「その方は予の家来ではなくなるのか」と、木戸は絶句大久保利通にも相談し快諾を得た。翌明治2年に薩摩・長州・土佐・肥前藩主連名で「私達の地は天子様の地、民も天子様のもの」と、上表し他の多くの諸侯も仕方なくこれにならった、その後も大規模な一揆が発生。第二案が廃藩置県だった、政府は各藩の債務を肩代わりする代わりに各藩の年貢を政府収入とし、知藩事の収入と身分を保証し東京に移住させた、代わって政府官僚を各府県に派遣し中央集権を確立、四民平等はこの時からスタートした。

👉 私利私欲のために働くようなことがあったら私を殺してもいい(稲盛和夫)  
創業3年目に前年入社の高卒社員11名が稲盛に毎年の定期昇給とボーナスの支払い確約等の要求書を突き付けた、創業間もない会社で社員達はしばしば深夜・時には日曜も働いた、稲盛は必死に説いた、「真実・同志だと思っている、しかし将来の賃上げ・ボーナスを保証するとは言えない、今は会社をつぶさないようにしているのが実情だ、いい加減な事は云えない」交渉は3日に及び漸く稲盛が「辞める勇気があったら・騙される勇気を持ってくれないか、もし私がいい加減な経営をして私利私欲のために働く様なことがあったら私を殺してくれてもいい」次いで「全従業員の物心両面の幸せを追求すると同時に人類社会の進歩発展に貢献する」と約束した。

👉 事業は国利民福を目標とすべきもの(渋沢栄一)～三菱の総師岩崎から一度ゆっくり話しを聞きたいと招かれた、この当時渋沢は初めて国法に基づく第一国立銀行を設立、東京商法会議所会頭に就任・僅か38歳、一方の岩崎は44歳で時の政権と結びつき巨利を得て大富豪への道を辿りつつあった。岩崎は渋沢の云う「事業は国利民福の合本主義」を理想論と述べ君と僕が手を結べば日本の実業界は二人の思うままだ、と言ったが激しい論争となり渋沢は席を蹴った、2年後に渋沢の息のかかった船会社を潰そうと岩崎の三菱汽船は泥沼のダンピング競争を続け両社とも甚大な損失、戦いは政争に発展、共倒れを恐れた政府が中に入って両社を合併させて「日本郵船会社」となって再出発、合併の少し前に岩崎は死闘に疲れ果てて死去。その後の渋沢の活躍は目覚ましく創設・主催し、或いは後援賛助した会社は5百社、福利教育など非営利事業は6百余に及んだ、近代日本資本主義形成を指導して「日本産業の父」と謳われ91歳で永眠した。

## 第7章 艱難に耐えて

👉それは努力が好きだったからだ(松本清張)～社会派推理小説の最高峰の家は貧しかった、清張は近くの古本屋で立ち読みして惨めな生活を慰めた、両親は片方が死ぬまで絶えず喧嘩した、高等小学校を卒業後、電気会社の給仕になり、この間に小説を沢山読んだ、19歳でリストラされ地方新聞に入った、やがて朝日新聞の九州支社の嘱託を経て支社員に、しかし身分制度で出世は絶望的だった、徴兵されて戦争で人の醜さを見、終戦・帰還・復員暫くして結婚、借家 3 畳と四畳半に両親・夫婦子供4人で将来に対する不安はいつも清張を苦しめた、内職に懸賞金目当てのポスター書きを夜中の1時・2時迄、ない時は毎晩麻雀・後悔と虚無感に苛まれ自殺さえ考えた、たまたま週刊朝日で1等賞金30万円の懸賞小説募集がありコツコツ書き昭和25年3等入選し10万円を得た、41歳の作家松本清張が誕生した、二作目の「或る“小倉日記”伝」で芥川賞を受賞、それから売れに売れた。

清張は地べたを這うようにして必死で生きる人間を丹念に描くと同時に常に権力者や組織の腐敗糾弾の筆を振るった。

👉こんちくしょう(小柴昌俊)～陸軍幼年学校を目指すも受験の1ヶ月前にジフテリアにかかり入院、音楽家・軍人への望みを絶たれ挫折感に苦しめられた。担任の先生からアインシュタイン著「物理はいかにつくられたか」を贈られ少年には難解だったが一心不乱に読んだ、2ヶ月後に退院するも手足が不自由家から中学まで4km以前はバス通学していたが一人でバスのステップに手が届かずリハビリを兼ねて片道2時間を徒歩通学、転んで一人で起きられないで助けられたこともある・それでも歩いて通学した、一浪して昭和20年1高に合格、寮の風呂は湯煙で顔が見えない中で1つ先輩の声で「小柴君はどこに行くんだろう」・「小柴君は物理が出来ないから東大物理でないことは確かだろう」と答えたのは力学の演習の先生だった、少年は悔しくて「こん畜生」と思い、奮起して翌年に東大物理学科に合格、小柴を侮っていた力学の先生は啞然とした、平成14年にはノーベル物理学賞受賞した。

👉練習だけがすべてだった(長嶋茂雄)～プロ野球入団初年度から引退迄の17年間ベストナインに選ばれ続けたのは日本プロ野球界に於いて「ミスタープロ野球」こと巨人軍の長嶋茂雄しかいない。昭和29年立教大学野球部に入り、そこに鬼と言われた砂押邦信監督がいた、入学式の日から野球部は練習、1週間目に雨の中・夕方に練習を終え夕食後新人全員に呼び出し暗い中でボールに石灰を塗ってキャッチボール、翌日は月のない夜に長嶋だけが呼び出され猛烈なノックが始まった、石灰が剥げてボールが殆ど見えないが長嶋は必死で捕球した、100本以上のノックを受け呼吸するのがやっとの状態で砂押はグローブに頼るな素手で取れ！何本か素手で痛みに耐えながら取った、更に翌日夕食後に自宅に来いと3km程バットを持ち30分以内に行く為に走った、バットはこれでやれと普通のバットの2倍の重さ

で十数分の素振りが限度だったが 60 分やらされ最後の方では地面を掃くように振るだけになった、合宿所迄帰りも走らされた、冬もバットを振り続け滑り止めの水にぬれた軍手は手の豆がつぶれて血で染まった、こうした辛い練習を 9 ヶ月間続けた。後年に長嶋は「うまくなりたいたい一心だった」と「背番3」は巨人の永久欠番である。

👉 ハンディキャップがあるから人一倍考えて努力しなければならない(古橋広之進)

戦前「日本人は海神ネプチューンの子孫か」と、世界から脅威の目で見られる程日本の水泳は強かった、昭和 7 年ロスアンゼルス・オリンピックでは背泳 100m で金・銀・銅を独占、昭和 11 年のベルリン大会では金メダル 4 個銀メダル 2 個、銅メダル 5 つを取った、戦後日本国民の期待を一身に集めたのは 19 歳の古橋だった、この人には 9 本の指しかなかった、昭和 23 年ロンドンオリンピックでは開催国イギリスの反対で日独は出場を拒まれたが日本選手権を同日開催、1500 メートル自由形で古橋のライバルは橋爪四郎だった、両者は譲らず古橋は 18 分 37 秒で世界新記録、2 位の橋爪も世界新記録だった、一方ロンドン大会の勝者は 19 分 18 秒 5 で世界は日本の記録に驚嘆、昭和 24 年アメリカは全米選手権大会に日本選手を招き古橋は 1500m 予選で 18 分 19 秒とケタ違いの驚異的な世界新記録であった、生涯では古橋は世界親記録を 23 回も出した、後年古橋は「ハンディキャップがあり人一倍の努力が私の今日をあらしめた」と。

👉 失ったのは財産だけではないか、その分だけ経験が血や肉となって身についた

(安藤百福)～世界初の即席ラーメンやカップヌードルの発明者で日清食品創始者安藤は戦後信用組合の理事長になって失敗し無一文になった、それから取り組んだのが熱湯を注げば直ぐに食べられるラーメンの開発で戦後の食糧難の時に人々が寒空の中で屋台のラーメン 1 杯を食べる為に並んでいる行列を見て大需要があると感じた。47 歳の安藤には部下も金もなくあるのは執念だけだった、開発に当り 5 つの目標を立てた～①美味しく飽きが来ない ②家庭で常備保存できる ③調理が簡単である ④値段が安い ⑤安全で衛生的である 朝 5 時起き平均睡眠 4 時間で研究に没頭、丸 1 年後に「お湯をかけて 2 分でできるラーメン」の試食会は大成功した。暫くして偽造品による食中毒事件が起き、安藤は日清食品の全商品に製造年月日の表示を世界で初めて食品に入れた。後年安藤は「絶対の窮地から出発したからこそ並びない潜在能力が発揮できたのではないだろうか」と。

## 第8章 自分を信じて

👉 私が呼び鈴を押すか押さないか迷っていた時は既に紙一重の所にいたのだ

(市村清)～昭和 2 年熊本で保険の外交員になった、当時は保険に対する理解などない時代だった、市村は医師・教師・弁護士等インテリ層を狙い一生懸命訪問する時間も割いて訪問先に礼状と保険の必要性を書いたが全く反応がなかった、2 ヶ月経っても契約は 1 件も取れず泣き乍ら夫婦は語り合い年末までの 8 日間 P 5

頑張っても契約が取れなければ東京へ逃げて行こう、と残された 8 日間に全力を尽くすと妻に誓った。高等女学校の校長は 8 回も断られた先で家の前で体がすくみ又断られるのではないかと恐怖し踵を返したが妻との約束を思い出し、思い切って呼び鈴を押した、校長先生は「実はあなたを待っていた、たまたま一通を読みあなたの熱心さ誠実さに打たれたので今月 1 回のみ掛け捨てます」と、夢に迄見た契約だったが「身に染みて有難いのですが 1 回だけでは保険料が無駄になります、本当に保険の必要性を理解いただき冗費を省いて継続的にお入り頂けるのでなければ残念ですがこの契約はお許しください」と、目に光るものがあった、校長は強く胸を打たれて「教育者である私があなたに教えられました、冗費を省いて継続的に入りましょう」と、更に校長は知り合いを紹介してくれて 4 口の契約が年内にできた、男は後にリコーの社長となり名経営者と謳われ三愛を作り「人を愛し・国を愛し・勤めを愛す」だった。

👉 中村屋の繁盛は新しく良い品を安く売る事によって招来されたもの(相馬愛蔵)

新宿中村屋の創業者相馬は妻の良が田舎の風俗習慣に合わず病気になりその療養為にも東京の本郷でパン屋を明治 34 年に開き既に二人の子持ちで 31 歳の時だった全くの素人で「パン店舗を譲り受けたし」の広告に応じたのが帝大(東大)前のパン屋中村屋だった、居ぬきのまゝ屋号・職人等全て譲り受け借金で購入し(中村は商売熱心だったが雇い人を粗末に扱いコメ相場で損をした)愛蔵は妻と話し合っ  
て贅沢しない、仕入れは現金取引、店員と同じ物を食する、相場に手出しはしない等のルールを決め仕事に打ち込み業績は伸びた、やがて新宿に好立地を見つけて開店 1 日の売り上げは本店本郷を上回った、この頃インドの王族で独立志士ラス・ビムリー・ボースは英国の迫害を受け日本に亡命、しかし政府は英国の強圧に屈しボースに国外退去命令日本の言論人は激しく政府を批判した、愛蔵は旧知の言論人からの嘆きを聞きボースをかくまう決意、4 ヶ月後政府もボースの保護を確約し身の安全が保障された、ボースは愛蔵の娘と結婚インド本場のカーライスを売り出して大好評をとった。大正の終わり頃愛蔵は葉桜餅を日本で初めて作ったのは役所の赤飯 1 石 5 斗の注文が納品当日にキャンセルになり処分に窮したがアイデアが閃いた、もち米を炊き少し潰して桜色をつけ餡を入れて折からの桜の葉に包み「新菓葉桜餅」と名づけ 1 ヶ月で 20 石売れた、大正 15 年新宿三越店が開店し売り上げが激減、対策を幹部会に問い、日曜日の営業時間を午後 7 時迄延長の提案を受け入れ売り上げは増大、この時間帯の売り上げの 5%を当直店員に報いた。

## 第 9 章 父母の愛ありて

👉 2002 年にノーベル化学賞を受賞した田中耕一は母親思いだったが実母ではない、実母は田中を生んで間もなく亡くなり実父は病弱で弟の叔父夫婦に 3 人の幼い姉弟と共に実の子として育てられた、東北大学入学の時に戸籍が必要となり生い立ちの真実を知らされ気力が失せ 2 年生で留年、就職の際にソニーの面接で P 6

上がってしまって不合格、生い立ちの事を研究室の教授に話したら「実は僕も叔母夫婦に育てられた」と、二人は今迄以上に打ち解け就職先に島津製作所を進められた「新しい仕事をして世界を相手に仕事しなさい」とアドバイスしてくれた、会社訪問の時に開発中のたんぱく質の分析装置を見てその開発に取り組みたいと希望して就職、それがノーベル賞化学賞受賞となり「人の命を救いたいという志を貫きたい・夢かもしれないが目標です」とインタビューで。

👉父にもう一度会う前に是非 IPS 細胞の医学応用を実現させたいのです(山中伸弥)  
人の体は 200 種類以上の細胞からなり一旦分化された器官は生涯皮膚だったものが血液や網膜・肝臓に変化する事はないと考えられていたが山中は人の皮膚の細胞を培養し、ある 4 つの遺伝子と刺激を与え「人工多能性幹細胞」=IPS 細胞の作製に成功した、これにより 2012 年山中はノーベル生理学医学賞を受賞、IPS 細胞には二つの大きな特徴がある

- ①高い増殖力を有する、人の細胞分裂は年齢にもよるが普通 50~60 回が IPS 細胞は培養すればほぼ無限に増やせる
- ②心臓・肝臓・肺・皮膚・血液などになり得る高い“分化能力”がある~IPS 細胞は人の皮膚を受精卵に近い役割のまだ決まっていない細胞状態に戻す事とも云える。

## 第 10 章 志ある限り

~樋口一葉・正岡子規・南方熊楠・新島譲・北里柴三郎・浜口雄幸・吉田松陰は 18 世紀から 19 世紀にかけて活躍された方々です、紙数の都合もあり 9 章以前の方々も相当数を割愛させていただきました。

👉私は余りに多くの難民の目の中に恐怖と苦痛を見てきました(緒方貞子)

1991 年 2 月緒方は国連総会で女性初・日本人初・学者出身初の第八代国連難民高等弁務官に選出された、緒方は人権保護・難民救済に強い関心を持ち人権蹂躪への憤りを持って人権政治に精通していた、弁務官に選出されたときは上智大学の外国語学部長であり直接の難民保護・救済の仕事を担当するのは初めてだった、難民保護は人道上的尊い仕事だが各国の政治的思惑・利害が色濃く複雑に絡む、それらを説得し束ね・難民救済へと導く激務だ、この仕事を 2 期 10 年間遂行、世界のトップ政治家・民族指導者・軍人・経済人・官僚・その他影響力のある人々と直接・間接に交渉し必要な資金・物資・物流・軍事力を確保し 500 万人を超える難民を救った。

緒方は世界中から尊敬・賞賛され著名人からの賞賛は枚挙にいとまがない。

ローマ法王ヨハネ・パウロ二世も絶賛した、退任のスピーチの中で「私は余りにも多くの難民の目の中に恐怖と苦痛を見てきました、保護・救済され援助を受けられて・安心感に変え更に故郷に戻れるという心躍る喜びに変えようと皆さん全員一段となって努力しました、この事が私の原動力であったと信じ、それはやりがいのある努力で皆さんと一緒に歩めたことを幸せに、そして光栄に思っています」と。 (完)